

ショッピングセンターのサービスカウンター

サービスカウンターの女性（ヤンキーっばい）（以下 サ）

ショッピングセンターの警備員（以下 ケ）

迷子の子供（以下 子） 男児5才

警備員がサービスカウンターに迷子の子供を連れて来る

ケ：すみません、迷子の子供をお連れしました。

サ：（マニキュアを塗りながら、面倒くさそうに舌打ちする）

はい、迷子ですか？この師走の忙しい時期に・・・

一応、規定ですので、この書類に記載してください。

と、書類を渡す。日時と、発見した場所も書いてくださいねええ。げんば警備さん。

用紙に記載している警備員を見ながら、

ああ、今日は14日ですよ。それで、この子のお名前はわかりましたか？

ケ：いや、泣いていて。。。何もしゃべってくれません。

サ：（面倒くさそうに・・・）マジ、頑固迷子？？？まったく、この忙しい時期に人が多くて、親御さん探すのマジ、大変ですよ。一応、こちらでお預かりしますけど・・・どこのフロアで発見されたんですか？？（といつつ、用紙を覗きつつ、）ああ。レストラン街ねえ。あそこは昼時激混みですからねええ。

ケ：はい、そうなんです。すいませんが、よろしく願いいたします。

警備員、なぜか後ろ髪をひかれつつ、持ち場に帰る

子：泣いている。

警備員が居なくなったら、サはマニキュアを塗りながら・・・

サ：ったく、これもう少しだからねえ。

子：そこのオナゴ。。。ナニユエ、爪を赤くしているのであるか？

大体、仕事中であろう・・・

サ：うるさいわね。。。子供には関係ないでしょ。今日はデートなのよ。それなのにあんたが迷子で来たから、困っているのよ。さっさと、名前と年を、言わないと、痛い目に合わすわよ・・・

子：オヌシ、クノイチであるか？

サ：クノイチってあの？クノイチ？そんな言葉良く知っているわね。あんたいったい、何歳なのよ・・・

子：ばかもん・・・そんな事は5才児だってわかっておるわ・・・

サ：ああ。。。5歳なんだああ。。。ひっかかったああ。。。

子：（悔しそうに・・・）ヤハリ、おぬしはただものではないな・・・

サ：そうよ・・・昔は・・・誰にも言わない？？ツクツクツク・・・レディーヌ頭よ・・・

子：オナゴの頭であるか？？ほお・・・（腕組みして偉そう）

サ：わかっているの？？

子：さあ・・・？？？

サ：まあ、いいわ・・・さっさと名前をオイイ・・・

子：ふん、その手には乗らんぞ・・・名を聞きたいのであれば、おぬしから名乗るのが筋であろう・・・

このタワケモノ

サ：なに??ナマケモノ??って..

子：タワケモノもわからぬとは...本物よの...

サ：(ぶん殴る)

子：助けてくれええ・虐待であるう...

サ：なんで、そんな時だけ、子供言葉なのよ...

子：まあ、拙者として、自分の事は承知しておく。5歳児、天才的な頭脳の持ち主、見た目は、イケメン。

父ひとり、子供一人のくらしじゃ...金持ちとは程遠いが、温かい家庭で育て、すくすくと成長している。IQ140でギブテッドじゃ...ところで、おぬしのIQはいくつじゃ...

サ：えええ...??88.59.88イじゃあ...

子：みるからに違っている。

サ：つつそお...ああ、もうこんな時間じゃないか??デートなんだよ...

だから、名前を早く言え...

子：だから、おぬしから名を名乗れのところまで来たぞ...

サ：おーそうじゃった...なんで、私まで変な言葉遣いに...

名札みたら、わかるわよねええ。「テラウチ」って言うのよ...

子：テラウチ??おぬし、まさかあの、生き残りの末裔のテラウチか??感動じゃあ...

サ：何言っているのよ...さっさとおぬしも名を名乗れ...

子：おまえええ。。テラウチせいを名乗っておきながら、この突っ込みもわからぬのか??ほんま物のタワケモノ

サ：本当、マジぶつ殺すよ...きさまああ...名を名乗れ

子：ええ??教えたら、なんかくれるの??

サ：そうねえ...こぶし???

子：助けてええ...虐待であるう。。

サ：いいから、名をなのれ...デートに遅れるうう。。

子：そうなんだあ。デートに遅れると困るんだああ...で、どのような殿方とデートなのであるか??

サ：いやだああ。。てるう...さわやかでユーモアがあって、ピアノがひけて、顔は西田敏行に似ているのよ...そんな事どうだっていいんだよ...名を名乗れ...

子：まあなあ...ええ??そんなのが良いのか?まあ、顔がどうのこうのと、言っている間は、本物ではないのおお...中身のない男かもしれないぞ...気をつけろよ...何かあれば、相談に乗るぞ...

サ：そうなんだあ。。実は...って、いいから、名をなのれよ...デートに遅れたらどうするんだよ...

子：まあまあ、そう焦んなさんなあ。。で、デートに遅れるとその殿方はどうするのだああ。。

サ：そりゃああ...もちろん、優しいから、何時間でも待っていてくれるのよ...

子：それは相当、暇人だなあ。では、拙者とデートでもしようじゃないか?

サ：それは却下、いいから名前を言え...

子：ふん、いいのか??拙者が大きくなって、出世して、ああ...あの時、あの子とデートしておけば、良かったのにと言う事態になるかもしれんぞ...なにせ、拙者はギブテッドだからのおお...

サ：はあ、??進駐軍からチョコ貰うあの??

子：それはギブミーチョコレートだろ...違うの、先天的に高い知性や共感的理解、論理感などを持っていることも。神様からの贈り物って事さああ...きさまにはわからんだろうなあ。。

サ：きゃああ...こんな時間に、ギブテッド君、名前を教えてよ。

子：名前のおお...教えてやっても良いがのおお...

サ：じゃあ、教えて・・・

子：確か「めぐろ・・・」

サ：目黒ねええ・・・ありがとう・・・今から、館内放送してくるから、そこから、動かないでね。

これで、やっと、デートにいけるわあ

館内放送：「お客様に迷子のお知らせです。目黒様のおぼっちゃま、5才をお預かりしております。お連れ様がいらっしゃいましたら、1階、サービスカウンターまで、ご連絡ください。よろしく願いいたします。」

サ：これで、お連れの方が迎えに来てくれるわよ・・・そして、私もデートに行けるうう。

子：そんなにうまく行くかのおお・・・

.....来ない・・・

サ：来ないわねええ。。。

子：来ないかも・・・実は、名前じゃがのおお・・・母がいつも中毒のように言っていたんだ。「私は目黒になるはずだったのに・・・とか、なんとか・・・だから、目黒って言えば、気が付いて迎えに来るかもおあって思って、感の悪いオナゴよのお」

サ：はあ??名前、違うの??バカアア・・・

子：まあ、人生とはうまくいかない方が多いのお・・・

サ：いいから、私は人生よりもデートが大事なの・・・早く名前いいなさいよ・・・

子：そんなこと言われても、拙者としては、おぬしの人生が心配であるからのお・・・

サ：こっちは拙者君にお迎えが来ないってのが心配なんだけどねええ。

子：心配には及ばんよ・・・そのうち現れるううう。

サ：そのうちじゃ、困るの、私のデートがかかっているのよ。。

子：まあ、落ち着け・・・あっ、来た・・・

さきほどの警備の人が私服で現れる。

ケ：すみません、その子の連れは自分なんです。仕事中に現れて・・・レストラン街で騒ぐものですから、仕事中はここに預かってもらおうと思って、本当にすみません、大変な子供だったでしょ。。

サ：はあ??ここは託児所じゃありませんよ。。。

ケ：すみません。父子家庭なもので・・・

サ：レストラン街で騒ぐって・・・

ケ：はあ、蕎麦屋の前で蕎麦屋の店員が杉野さんだったんですよ。

そしたら、「パパ、あれは、あれは、杉野十兵衛太、パパが槍を教えたあの人こそ、今日、討ち入りに・・・」って、騒ぐものですから、

サ：はあ・・・それは、大変でしたねええ。・・・じゃあ、あの、めぐろっていうのは??

ケ：ああ。。この子妄想癖がありましてね。。

サ：そうなんですか?寂しいのかな??

子：そんな事ないよ・・・ただ、お姉ちゃんをからかっただけだよ・・・

ケ：すみません。ほんとに

サ：いいですよ・・・私も間に合いそうだし・・・

ケ：何がですか?

サ：ひみつです。じゃあ、バイバイね。

子：世話になったな。。。達者で暮らせよ

子：パパ、あの人ねえ・・・、生き残りの末裔の人でねえ。本当に知能指数が低くて、楽しかったよ・・・
そうそうパパ、今日は塩を買わないとね。AKOの塩だよ・・・
ケ：そうだな・・・赤穂の塩を買ってから帰ろう・・・